

議案第44号について、予算特別委員長の報告は、原案可決であります。予算特別委員長報告のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立多数)

○**渋谷佐輔議長** 起立多数であります。よって、議案第44号は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、日程第4、議案第45号 平成28年度長井市公共下水道事業特別会計補正予算第1号の1件について、討論の通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

議案第45号について、予算特別委員長の報告は、原案可決であります。予算特別委員長報告のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○**渋谷佐輔議長** 起立全員であります。よって、議案第45号は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

委員会付託の省略について

○**渋谷佐輔議長** お諮りいたします。これから上程いたします議案は、委員会付託を省略し、全員でご審議願いたいと思っておりますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ご異議なしと認めます。よって、そのように決定いたしました。

日程第5 議案第46号 財産の取得について

日程第6 議案第47号 平成28年度長井市一般会計補正予算第4号

○**渋谷佐輔議長** それでは、日程第5、議案第46号 財産の取得について及び日程第6、議案第47号 平成28年度長井市一般会計補正予算第4号の2件を一括議題といたします。

提案者の説明を求めます。

内谷重治市長。

(内谷重治市長登壇)

○**内谷重治市長** おはようございます。

議案第46号 財産の取得についてご説明申し上げます。

本案は、長井南中学校用地を取得いたすため、長井市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、ご提案申し上げるものでございます。

次に、議案第47号 平成28年度長井市一般会計補正予算第4号についてご説明申し上げます。

第1条の歳入歳出予算の補正につきましては、予算の総額に3,820万円を追加いたしまして、予算の総額を歳入歳出それぞれ142億8,486万5,000円といたすものでございます。

このたびの補正は、長井市ラウンドアバウト社会実験事業2,320万円、地方創生推進交付金事業1,500万円を増額するものでございます。これらの補正の財源といたしまして、地方創生推進交付金750万円、道路に関する新たな取り組みの現地実証実験(社会実験)補助金100万円を計上し、なお不足する財源としましては、前年度繰越金2,970万円を充てるものでございます。

以上、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○**渋谷佐輔議長** 提案者の説明が終わりました。

それでは、これから1件ごとに質疑、討論、採決を行います。

なお、申し合わせにより、委員会付託を省略して全員による審議の場合、当日提案議案の質疑につきましては、一問一答の方式により行うこととされております。質疑の時間は、1人当

たり答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いします。

まず、日程第5、議案第46号 財産の取得についての1件について質疑を行います。ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** 質疑もないので、質疑を終結いたします。

それでは、議案第46号について討論を行います。ご意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ご意見もないので、討論を終結し、採決いたします。

議案第46号は、原案のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○**渋谷佐輔議長** 起立全員であります。よって、議案第46号は、原案のとおり決定いたしました。

次に、日程第6、議案第47号 平成28年度長井市一般会計補正予算第4号の1件について質疑を行います。ご質疑ございませんか。

13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** ラウンドアバウトの関係についてお尋ねいたします。

この事業が行われるというのは、マスコミの記事で初めて知ったわけなんですけど、そもそもどういう経過があってこの事業を行うことになったのか、それが第1点。

それから、初めて新聞で知るといって、例えば議会に事前になぜこの報告なりなかったのか、この2点についてお尋ねいたします。市長のほうからお願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

まず、最初のご質問でございますけれども、以前より長井市内でラウンドアバウトをすべきじゃないかという交差点については市民の皆様からもいろいろご意見などがございました。例

えば駅前通りに面するところで、十字路の部分をヨーロッパのようなラウンドアバウトで交差点の安全性を高めたらいいんじゃないかというようなご意見等々でございました。また、一方で、私ども建設課のほうで、やはり交通量が多いのにもかかわらず、信号の要望があっても、信号については県の公安委員会のご判断で、なかなか設置が難しいと。一方で、なかなか事故が減らないという箇所について、ラウンドアバウトということも選択の一つというふうに考えておりましたが、県の県土整備部長が、国土交通省からの出向で来られている方なんですけど、そういった交差点については、ラウンドアバウトということで、社会実験的なものが東北では宮城県にあるぐらいで少ないんですけども、西日本のほうではそういった社会実験が行われているというご提言、ご指導などもございまして、昨年11月に長井市でラウンドアバウトに関する講演会というのを開催したところでございます。これは名古屋大学のラウンドアバウトの一人者の一人という方にお越しいただいて、いろいろ理解を深めたわけでございます。

そしてその後、28年度事業として、ラウンドアバウトについて社会実験として採択っていいですか、募集してるというようなことから、これは具体的に補助事業じゃないもんですから採択になって補助率もどうかということとはわからないんですけど、一応いろいろ長井市としても取り組むということで手を挙げたらどうかというような内部での結論に至りまして、手を挙げたというのが最初のきっかけでございます。28年度については、結果としてですが、全国7カ所だけ認められたということでございます。私どものほうでは、6月ぐらいに結果が出るんじゃないかというふうな情報は得ておったんですけど、具体的に採択になるかどうかとか、そういった情報は一切ございませんでした。山形新聞に掲載される前日の午後に県のほうから連絡があり

まして、どうやら東北で唯一、長井市がラウンドアバウトの社会実験として採択されるようだと、詳細は、よくわからないということでした。

そういったところで、私どもとしても、まさか新聞に出るといことは予想していなかったんですが、私どもが持っている情報以上に詳しいことが翌日の山形新聞に掲載されたということで、大変ここは申しわけなく思ったところでございますが、経過としてはそういったところでございます。本来であれば、補助事業として制度があって、そこに手を挙げるという場合は、それぞれの常任委員会の協議会なり、あるいは議案の前の段階でご説明などをさせていただく場合があるんですが、今回は社会実験ということで、果たしてどういう制度のもので、採択になるかどうか分からないということなものですから、そういった不確定な情報として協議会等々でお知らせしなかったということで、これは、今後こういった場合は、その他で、こういったことに手を挙げてますということは、今回のような報道から鑑みて、やっぱり事前に議会のほうにもお示しする必要があるなと思ったところでございます。

2点目のご質問につきましては、大変私どもも予測してなかったとはいえ、私どもじゃなくて、県のほうに聞いて書かれた記事というふうに思いますが、この辺については、私どもも、そういった場合はあらかじめ予想して、議会の皆様に何らかの形で出る可能性があるということを事前にお知らせする必要があったのではないかとこのように反省しているところでございます。大変このたびは唐突な感があったと思いますが、議会の皆様には詳しい説明をいたさずに大変申しわけございませんでした。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** 経過についてはわかり

ました。

この国県支出金100万円というのは、当初から100万円ぐらいしか来ないよということは予算措置の上ではおわかりになっていたということで理解してよろしいんですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 当初は、半額ぐらいの補助でないかというふうに言われておりましたんで、まさかこんなに低額だとは思いませんでした。

その経過については、恐れ入りますが、建設参事のほうから答弁いたさせます。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** 本実験の採択された趣旨というのは、雪国におけるラウンドアバウトの実用性を実験し、施策として導入を検討する上での指標となるものでございます。確かに本実験の補助金は想定したよりも大分少ない金額でございました。長井市として、安心・安全なまちづくりを進める上で多角的な施策に取り組むという必要性がございますので、補助金の多少にかかわらず、この採択は受けるべきであるというふうに考えております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** 受けるべきだと言われれば、なかなか言葉が見つからないですけども、幾ら補助金 comes のか全く当てがないうところでどんどん進めていくというのは果たしてどうなのかなと。このモデル的な事業の実験をしてみることについては、私も何も反対するものではなくて、いい試みではあると思いますが、やはり2,300万円のうち100万円しか来ないというのは、ちょっと長井市にとってなかなか財政的にも大変だなと思うんですね。これ初めからわかって、100万円しか来ないけど、やるんだということで手を挙げて議会の同意を得てやっていくのであれば、これは何も問題ないんですけども、当初がもっと来るもんだと思ってたけども、結果として来なかったと。こ

れは余りにも、それこそアバウトなんじゃないかなと思うんですよね。この点いかがですか、市長。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 蒲生議員がおっしゃるのが通常の考え方であろうというふうに思います。例えば、今回、地方創生の推進交付金のほうに手を挙げております長井小学校の第一校舎につきましても、28年度に免震工事の補助ということで手を挙げておまして、結果としては27年度の補正で採択いただきました。ところが、補助率が3分の1ということで補助率の単価が違うもんですから、補助率は3分の1なんですけど、いわゆる対象の単価というのがありまして、そこからいうと大分開きがあったんで、再三文部科学省とか地元の選出の国会議員の方々にもお願いに行っただけなんですけど、結果として5%、6%ぐらいしかなかったということで、これは予算はついたんですが、おわびをしてお断りいたしました。

しかし、今回のラウンドアバウトにつきましては、まず、山形県で初めての社会実験の試みであると、また、県のほうでも国のほうでも、とにかく5割を目指してかなり頑張ったんですけども、残念ながら、もう国のほうではさまざまな社会保障等々の予算で今回は申しわけないというふうなことで100万円でございますので、100万円だから、じゃあ、やめたということではなく、これはあくまでも社会実験で、やっぱり長井市内にラウンドアバウトですべきところが二、三カ所あるなと思っておまして、それを考えた場合に、今回、私ども、手を挙げたことが、そして負担は大きいんですが、社会実験を行ったことによりまして、今後ラウンドアバウトが本格的に制度化されてやった場合の採択率というのは高まるであろうし、長井市がやはり優先されるというふうに長期的に考えて、このたびは、大変100万円ということで議会の

皆様にもご判断に苦しむ状況になってしまいましたけども、何とかその趣旨をお酌み取りいただき、今後のこともあるということで、ぜひご承認賜ればというふうに思います。

なお、今回、社会実験したところは、聞いてらっしゃると思うんですが、非常に見通しのいい十字路なんです。ところが、事故が毎年五、六件あると。もう五、六年前になりますが、残念ながら死亡事故なども起きておりますし、やっぱりここは私どもとしても、社会実験としてこれをまずしっかりと実証してまいりたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** 普通、モデル事業のときは、8割方、国で出して、それでやってみて、それでみんなが殺到するもんで補助率が下がっていくなんていうケースが普通なんです。今回は、その逆をたどるわけなんです。それはそれで、まずやることにしたんですからそれは結構だと思いますが、確かに今、市長がおっしゃるように、あそこの交差点というのは、西、北側に木とか植え込みなどがあって、死亡事故があったので全部きれいにして見通しよくしたんですけど、見通しがよいところってして事故が多発するという、それはおっしゃるとおりだと思います。

あそこに見てみたいということは、例えば土地の確保であるとか、そういうこともあるだろうと思うんですが、そうしますと、あそこの冬期間、一番ふぶいたりして見通しの悪い時期って、私、通ったことないから何とも想定しできないんですけども、かなり十字路も見えなくなるぐらいふぶくんじゃないのかなというときに、あそこがラウンドアバウトだというようなことがわかるように何かしなきゃいけないと思うんですけども、これは建設参事かどうかわかりませんが、それはどういうふうにするのか

ということと、地元に対する説明も必要だと思うんですけども、その2点についてお願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

今回の趣旨というのは、まず、冬期間での実験ということでございますので、蒲生議員おっしゃることが一番の実験の要素というふうになると思います。ふぶいたり、雪が圧雪になったところでのラウンドアバウトというのはどういうものかということが一番の実験の要素だと思います。もうこちらとしては、建設課主体だけで行うのではなくて、当然公安委員会も一緒になって参画していただきますけども、交差点に入る前の注意喚起の標識等、また、交差点内での右回りが原則になりますのでその明示等をしっかりというか、行いまして、実験の要素として定点カメラを置くとか、あと、車載レーダーで車の動向を調べるとか、そういう実験要素も今回の社会実験には含まれておりますので、その辺のことを加味して実験に入りたい。できれば早目に完成させて、冬期間前と冬期間に入ったところ、その実験をいたしたいというふうに考えております。

当然、あと、蒲生議員がおっしゃられましたように、ちょっと地元への説明が大変後手になってしまいましたので、早急に実施していきたいというふうに考えております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** そのほかございませんか。

7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 今、蒲生議員からありました8款2項3目の長井ラウンドアバウト社会実験事業について、再度お聞きいたしたいと思っております。蒲生議員のご指摘で私が聞いたかったところと大体はあったんですけども、二、三点お聞きしたいところがありますので、市長にお聞きしたいと思っております。

私も、宮城県に縁がありまして長くいたこと

もあって現在も意識しているので、ラウンドアバウトを設置した箇所、何カ所か見させていただいた経験があります。このラウンドアバウトというのは、多くの方が知っているとありますが、ヨーロッパだと、19世紀にシャルル・ド・ゴール広場、昔のエトワール広場ですか、スタートしまして、アメリカ・ニューヨークでラウンドアバウトとしては一番最初そこがつけられたと、まちなかにも実際あるサークル状の交差点ということになってますけども、実際ロンドンやパリなどの大都市圏でも設置はされております。今回の実験は、まちなかでなく、郊外での実験になります。なので、歩行者に関しては、郊外でそれほど多く歩行者がいなくて、郊外の実験ですので影響はないと思っておりますし、ただ、実験データとして、郊外での実験なので、まちなかへの導入をもし考えているのであれば、またちょっと状況は違ってくると思っておりますので、その辺、市長がどう考えているのか、まず1点お聞きしたいと思っております。

続いて、実際、信号がないということで、こちらも今の件と同じような内容なんですけども、信号がないので、歩行者にわかりにくくて、いつ横断していいかわからなくなる、そして交差点から若干外側に歩道がつけられるわけですね。交差点がサークル、中島が出ますので、車が旋回できる程度の円形のスペースが必要になってきますので、歩道の位置が大分交差点中央部から外にそれますので、二重横断をせねばならないようなまちなかには不適當であるという実験も実はヨーロッパのほうではなってます。実際シャルル・ド・ゴール広場にしても、歩行者が通るようなスペースはなく、車がぐるぐる回っているというのが現状です。ウィキペディアとか参考資料を見てみましても、いいことしかまず書いてはいないんですけども、実際問題、それに反する論点を上げている投稿サイトなんかもありまして、交差点が渡りづらいのと、進入

する車両が、全ての車両が自分の方向が優先だと勘違いする、しやすいと、あと、実際、これは郊外ならばかなり適しているものだと思います。ヨーロッパに最初つくられましたシャルル・ド・ゴールの交差点に関して、実は当時は郊外です、まちの外れです。それが19世紀につくられ、そのまちが徐々に広がりを持ったためにまちのど真ん中にあるんですけども、実際ウィキペディアなんかの画像を見ても、ほぼ郊外なんですね。今回設置するような箇所ですか、もしくはベッドタウンの端の最初の交差点ですとか、交通の難所ではないところの設置が多いようです。この件に関して市長にお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 渡部議員のご質問にお答えいたします。

渡部議員がおっしゃるとおり、歩行者については、やっぱりかなり最初は戸惑うのかなと。当然車のほうも、事前にしっかりと知識がないと、交差点の真ん中にぼおんとロータリーっていいですか、ありますので、真つすぐは行けないので、車は当然とまらざるを得ないので、その辺の説明などについては、先ほど青木参事からありましたように、まず雪の降る前に完成して、ある程度あそこを通られる車というのは建設関係の車と、あと、地元の方、あとは農業関係の方が多いと思いますので、そういったところのご利用される皆様への啓蒙とお願いはしっかりとすべきいけないと。

あと、問題は、議員おっしゃるように歩行者なんですけども、歩行者については、やっぱり戸惑いもあるし、少し遠回りしなきゃいけないような状況になってしまう部分もあるかと思いますが、小学生、中学生、高校生などについても事前にしっかりとお知らせして、安全性をしっかりと図れるような準備をして取り組みたいと思っています。

議員がおっしゃるまちなかの導入については、私、個人的な見解としては、例えば十日町の変形の十字路あたりは、むしろ、ちょっとあそこは大型バスが通るので、非常に大きいラウンドアバウトになるので大変なのかなというふうに思いますが、あそこは非常に、例えばこちらから白鷹、北に向かう場合は、五、六十メートルでまた交差点があるわけですから、非常に難しい交差点だと。交差点改良はずっと県のほうにお願いしてるんですが、なかなかもう難しいという点張りでありますので、そのところをラウンドアバウトできないかとかというふうに考えております。

あとは、駅前通りに面したところだと思うんですけども、その場合も、やっぱりこれはむしろ歩行者のほうの方が非常に危ないということがあります。今回、長井市が社会実験として手を挙げたところは郊外でありまして、建設参事が申しあげたとおり、冬場のラウンドアバウトの安全性の検証だということがメインでございますので、冬場のまちなかというのはないんでしょうけども、まちなかのラウンドアバウトについては、いろんな西日本も含めて宮城県のデータがありますので、その辺を導入の際は配慮しながら場所の選定とかしていかなくちゃいけないというふうに思っています。今回はあくまでも社会実験で、しかも山形県で初めてでありますので、聞くところによると、天童とかの免許の更新なんかの講習では、今度、長井市でラウンドアバウトが社会実験でされるというような話ももう言ってるというようなことなんですけども、ぜひ議員がおっしゃるような部分について、しっかりとデータをとれるように私どもでも努力してまいりたいというふうに思います。大変ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** お答えありがとうございました。

追加というわけではないんですけども、先ほど市長のほうから、まちなかへの導入ということでお話しいただきました。市長の中では、二、三カ所くらい設置したい場所というのがあるというのは2回ほど冒頭にもお聞きしまして、大体の箇所というのも理解はできたと思います。

まちなかのにぎわいという観点からすると、実際、道路拡張によってまちなかがにぎわったところって、日本中探してもどこにも実はないというのが、道路が広がりますと、車の速度がどうしても上がると。どうしても上がってしまうと、興味あるお店も今度寄ろうかと、積み重なってとまらなくなっていくというのがありますので。ただ、ラウンドアバウトのいいところは、回ることによって見える風景が変わってくるので、こっちへ行ってみようかという車ももちろん出るわけですけども、導入箇所に関しては、安全面、そして、ある程度まちなかにつくるとシンボリック的なものになっていくことになりしますので、導入箇所と、立ち退き等の費用もかなりの高額になると思いますので、その辺はその都度議会に上げてもらって検討していただきたいと、報告していただきたいと思いません。

また、見通しのよい交差点というのは、実際ラウンドアバウトはかなり有効なものだと思いますので、まちなかに限らず、二重交差点のようところで二重に信号があるところに関しては、この導入を進めてほしいなと私、個人で思うんですけども、市長はどう見解をお持ちでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 渡部議員おっしゃるように、導入に当たっては、今回の実験を予定しているところについては、用地についても、田んぼ、農地が多いということで、地権者の方にご理解いただいて何とかご協力いただければ、比較的金もそんなにかからず済むんですが、まちなか

ですと、ロータリーをつくらなきゃいけないわけですから、交差点周辺の立ち退き、土地も含めて補償については莫大なものになるというふうに思ってます。ですから長井市というよりも、県あたり、県道あたりでぜひやっていただければなというふうに思ってます。

あと、郊外については、やはりおっしゃるとおり、今回の場所に限らず、危険なところで見通しがよくて事故があるところ等々についてはほかにもたくさんあるかと思しますので、それらについても、ラウンドアバウトの制度が補助事業として確立した際には、ぜひ、地元の要望などもお聞きしながら、できるだけ安全性を図る意味で導入を検討してまいりたいというふうに思いますし、その際には、補助事業になるわけですから、こういった箇所を検討したい、あるいは申請してるということを事前に議会の皆様にはご了承いただいて、国、県等々に申請するということになるかと思しますので、よろしくご理解をお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 市長、ありがとうございます。今の件に関しては大分納得がいったと思いますので、次の件に移りたいと思います。

2款1項6目の地方創生推進交付金事業、長井小学校の第一校舎の活用可能性調査委託料についてお聞きしたいと思います。

現在、長井小学校の第一校舎の活用に関しては、市長ご存じのとおり、かなり長い間、私が議員になる前からずっと議論されている内容で、その第一校舎を管理棟、職員室として使っていたものをどうしていくかと、まして、その建物自体が全国でも有数の文化財である、価値があるものだというところで、実際、市長当局のほうもかなり苦慮していると思います。これは調査事業ですので、調査していくことは私はとてもいいことだと思いますので、これに関して大きく反論とか、そういう思いはありませんが、

実際どのように第一校舎を残していくのかという議論をある程度並行して進めていく必要を私は感じているんですけども、市長、どうでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** まずは第一校舎は、登録有形文化財ということで認めていただいた建物ではございますが、免震工事についていろいろ要望をした際に、県あるいは国に言ったときに言われたのは、小学校の木造の校舎はいっぱいあるんだと。だから長井小学校の第一校舎がどれだけ重要な価値のある建物なのかということ、やっぱりもう少ししっかりとアピールしていかなくちゃいけないなというふうに思っています。例えば、私はすごい建物だなと、全国でも余り例のない小学校、つい最近まで使っていた木造の校舎、2階建てとしては多分もう数少ない事例だというふうに思っています。やっぱり長井小学校第一校舎のことについて保存したいということで、これは去年からのずっと懸案事項でありますので、市民のいろんな方に話を聞いてみたり、あるいは例えば市外の方のお話を聞いてみますと、かなり二分してまして、そんなもの珍しいものじゃないからお金をそんなに使わないほうがいいんじゃないかという方々と、そういったものは長井の教育のシンボルだから、ぜひ保存して生かすべきだと。ただ、学校から切り離した場合は、どういうふうな使い方をするかということ、これをまずみんなで議論して、みんなの意見を踏まえた上で、使い方を考えてから免震工事をということになるんだろうと思っています。

免震工事以外の工事方法はないかということで、実は相当、設計業者、直接呼んだり、あと、私も納得いかないから直接話をしたいということで話しましたが、工法的には、免震工事でなくても済むんですが、同じようにお金が、そんなに変わらないんですね、残念ながら。なものですから、それだったらやっぱり一番安全性

の高い、あと、耐震構造の図れる免震工事というふうになってまして、こちらはこちらで地方創生の推進交付金を使いながら、まずは使い方をどうすると、活用方法、これを補助を受けてやっていくと。ある程度並行して、今度は建物をどういうふうにして有利な形で改修と免震化していくかということについては、いろんな方法があるかと思っておりますので、当然ガバメントクラウドファンディングとか、あるいは文部科学省の補助事業じゃないわけですね、今回は地方創生の交付金ですから、また違った補助金を使う形で考えてるんですが、あとは、有利な起債とか等々を検討しながらやっていきたいというのがスタンスでございます。

ですから、まず、使い方はどうするかということ、これをみんなの意見をいただいて、ただし、あんまり利用がないような形での使い方は大金をかけるのでこれはもったいないので、やっぱりうまくそれ自体で多くの皆さんに見ていただき、活用いただけるような施設にすること、あと、免震等改修工事については、別途これはいろんな知恵を絞って、いろんな皆様からご協力を得てやっていきたいというふうに考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** ご説明ありがとうございます。

先日行われました委員会、総務・文教連合協議会ですか、のほうでの資料の中で、総事業費、免震化工事で6億円を超す金額が提示されておりまして、実際、免震部分と老朽化対策部分と別々の補助金や単独の予算になってくると思いますけども、このくらいの費用がかかるとしたならば、第一校舎を切り離してほかの施設に使うというのは、私の中で半分賛成なんです。

1つ、賛成し切れないところがありまして、まず1点として、ほぼ同額のお金在实际免震化、管理棟として使う場合もそのぐらいの予算がか

かるという提示が先にあります。もちろん補助率がかなり低いというのは、市長の説明のとおり、私も低いなど、ちょっとがっかりしたところもありましたが、実際、職員室として管理棟として使う場合は新たに管理棟をつくる必要がなくなります。ただ、実際木造ですから未来永劫残るといえることはありません。第二、第三校舎にしても、もうすぐ改修がかかる年になっておりますので先延ばしになるだけになります、どんな建物もいずれは朽ちていくと、いずれ改修が必要になっていくということでもありますので、先日ですか、3月議会の文教常任委員会の中でもありましたが、昇降口の上に管理棟をと、第二校舎にくっつけるような形ですかね、そういうような案もありまして、ただ、そういう場合にやはり大幅に別に予算がかかると。

第二校舎の改修にあわせると、同じ部分の工事なので、今試算している額よりは下がるかもしれないよというようなお話もありましたが、総合的に考え方をしっかり整理していかないと、補助事業はとて素晴らしいことだと思いますし、調査事業に関して調査するのはとて素晴らしいことだと思いますが、市としての方向性をがっちり決められた中で、ある程度柔軟な動きが必要になりますけれども、見据えていかないと、6億円というお金はどこからも出せなくなってくるというのを私、感じておりますので、その辺、市長にお考えをお聞きしたいのと、もし切り離した場合ですね、実際、利活用してる旧校舎の木造というのを、私も宮城県の登米市の登米の教育資料館のほうを数回行かせていただきまして、給食を食べさせてもらったりできるんですけども、そういう事業をなさっている行政は実際あります。ですが、長井小学校の場合、切り離した後、後ろで普通に授業がなされていると、子供たちが勉強している空間のすぐそこに一般の方が入り込む形になります。その辺の配慮はかなり必要になってきますので、この辺に関して市長の

お考えをお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

まず、整理してお話ししますと、今、長井小学校第一校舎は学校施設として切り離しておりませんが、実質的にもう使えませんので、これいづれこのままですと、切り離さざるを得ないと。その場合、今、仮設で職員室を月200万円払って借りているわけなんですけども、これをできるだけ早く、その200万円というのは緊急避難的なものですから、これをずっと続けるということは少しでも早く避けなきゃいけないだろうと、違う対応をしなきゃいけないだろうということで、長井小学校として、基本的に職員室、管理棟をどうするかということがまず1つあります。

今、教育委員会のほうで示してるのは、私も賛成なんですけども、第二校舎、第三校舎の中は、子供が減ったとはいえ、山形県の場合、さんさんプランで教室が必要ですし、あと、学童クラブで使っているというものの、いっぱい教室を使ってるわけじゃないですね。長井小学校クラスになりますと、やっぱり職員室だけじゃなくて、いろんな会議室やら、あとは、あいてるところは調理室とか理科室に改造したところもありますので、ちょっと厳しいと、正直なところ。ですから、いずれ建てなきゃいけない昇降口も含めれば、昇降口も含めた管理棟を、これは決断として議会の皆様の理解をいただいて、管理棟を新築、改築するということはしなきゃいけない、これはもう義務だと思ってます。

一方で、これ切り離すわけですから、今度は長井小学校第一校舎をどうするか考えた場合、このままですと、使わないということで、もう老朽化が生じるんですね、やっぱり人が入らないと。ですから、それはあのまま中に入れないようにして、あと、将来的には危険になりますから、周りに近づかないようにして、あのまま

にして、外見だけ見てもらうというようなことになってしまいうだろうと思っています。

今回、私どもで昨年の補正の際に検討した内容からいうと、6億2,500万円というのが全体事業費なんです。免震は4億円ぐらいなんです。中が古い材になってますし、あと、シロアリとかにやられてるところもありますし、そういった内部の改装、いわゆる大規模改修の部分が2億円以上かかるということで、合わせて6億2,500万円ぐらいなんです。ところが、補助事業の補助率が5%ぐらいで、せいぜい四、五千万円ぐらいだと。残りを起債とした場合、学校施設ですと、起債に対する、借金に対する交付税措置ってないんですね。ですからもう純粋に6億円以上ですと、5億5,000万円が市の負担になってしまう。ところが、今回の地方創生の推進交付金を使った考え方でいきますと、学校施設じゃなく使いますので、これは地域の活性化のためのいわゆる起債を使える確率っていいですか、非常に高いなということなものですから、それですと、後ほど起債した部分に対して30%の交付税措置があるということで、やるんだったらこれを使おうと。

問題は、議員からもありましたように、お金をかけてつくるわけですから、確かにシンボルだから残すんだと、だから5億円、6億円かなきゃいけないというだけではやっぱり市民の皆さんのご理解を得られませんので、それを十分に活用して、まちの活性化とか、あと、教育の振興に資する使い方をするということが、まず必要不可欠だと思っています。したがって、今回の推進交付金を使って、まずは使い方をみんな考える、そういう今の新しい手法があるんだそうですけど、単なるアンケートじゃなくて、どうするかということを取りながらやるやり方をやって同時並行的に進めていきますが、どうもこれではだめじゃないかと、議会も、こんな使い方だったらもう5億円、6億円

をかける必要ないという判断もあるかもしれません。その際は、これは途中で断念ということもあるかもしれません。

ただ、私どもとしては、それもあるかもしれませんが、それを上回る中身の、みんなが、これだったらぜひ長井小学校を残して自分も使いたい、家族で行きたい、あるいは外からも来ていただいて長井の昔の文化とか風習とか、あと、教育というものを知りたいというような施設にしていきたいと。ですからその場合は、また違った補助事業でやっていくという考え方で、よろしくご理解いただきたいと思えます。ちょっと長くなって恐縮ですが、非常にこれ難しいので、どうしても説明が長くなって申しわけございません。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 最後には、市長のお考えは、管理棟としては使わず、長井小学校第一校舎を学びをテーマとした集客施設のような、まちなかのにぎわいを創出できるような施設に転換して使っていきたいという、市民の学びの場としての位置づけを考えていると、現時点では、そう考えてよろしいでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** はい、議員のおっしゃるとおりです。そして第一校舎を整備するにも、もうほとんど自費、管理棟として使う場合もほとんど自費だと。新しく職員室と昇降口を含めて五、六億円かかるかもしれない、これもほとんど自費なんです。ただし、耐用年数は全然違うと。ですから議員おっしゃるとおりで考えております。

○**渋谷佐輔議長** ほかに。

11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 私は、ラウンドアバウトの件について確認の意味で質問を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

平野の安全推進協議会、6月17日にあったわ

けですが、その折、例えば平野地区の住民のさまざまな面からの生活の安全にかかわる協議会の総会の折、特にことは予定されておった地域防災、自主防災組織の部分の研修なども含めてあったわけですが、既にそのときは、小坂地区にラウンドアバウトの交差点ができるというふうな新聞報道があったと、なんじよになんややというふうな話を私ら出席した議員は逆に問いかけられたというふうなことであります。

交通事故をなくすためのいろいろな実験をするのは、これは私は全然否定しないわけで大変いいことなんだけど、まず1つは、地元からこういう事故が、さっき回答さもありましたが、あそこの交差点は非常に見通しがよくて事故が多かったということは私どもも承知しておるわけですが、地元から、小坂地区とか平野の安全推進協議会とか交通安全協会の立場からとか、あの交差点の改良について具体的に要請、要望があったのかどうか、確認をしたいんですが、これは、建設参事、よろしく願います。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

平野地区の交通安全協会とか地元からの、その交差点についての要望はございません。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 私も、地区長会なり、交通安全協会なり、平野については随分細かくチェックというか、毎年、生活、特に子供らの通学路の点検などを含めて毎年チェックをしながら要望、要請を行ってきたという経過があるわけですが、その中で、非常に注目される交差点というふうなことであれば、もう少し、特に平野については、地域づくりの協議会も立ち上がっておって、さまざまな地域課題を掘り起こす手段があるわけですので、相談があつてしかるべきだなど。また、さっきほかの議員からもありましたように、地元の説明については、決まったのでというふうな説明では、なかなか難

しい提案の仕方だなど。今回の当日提案についても、新聞報道が優先されてるという件がたび重なっておりますので、その辺については、さっき市長からはいろいろな理由が述べられましたけれども、これは議会に対して率先して説明をいただき、私どもも住民の方々といろいろな情報を共有しながら、市民の生活の安全のために尽くしていかなね立場でありますので、これは情報の出し方についてちょっと違和感があるなというふうなことでありますので、市長から答弁をいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** まず、小関議員初め議会の皆様には、このたびのラウンドアバウトの報道の件につきましても、やはり報道については、私どもからなかなか言える立場にはないんですけども、情報を出すときは、やっぱり相当気をつけなきゃいけないなというふうに思っております。そういった意味では、唐突の感が拭えず、しかも私ども、幾ら社会実験で採択されるかどうか分からないといえども、やはり今回のようなことがあるということから、多分今まではそういうことなかったと思うんですね。新たな全国的にやってないのに手を挙げたというのは何回か例はあるんですけども、今回みたいな報道のされ方というのは余りなかったと思いますので、やはりそういったことを想定しながら、これ議会の皆様に、協議会だったら言えると思うんですね、こういう状況ですと、どうなるかわかりませんがと、そういうことでよろしかったら、やっぱり言っていかなきゃいけないのかなと。

ただ、今までは、議会に対しては、ある程度きちっとした確定、見込みが高いものしか、どうなるかわからないものについてはやっぱり報告等々はしにくいということがありまして、そういったことはしてこなかったんですけども、今回のようなことで、議会はもちろん地元の皆様も大分困惑されたんだというふうに思います

ので、今回を教訓に、今後は、報道等々に対するあり方についても十分に誤解を抱かれないような対応を心がけていきたいと思っておりますので、よろしくご理解いただきたいと思っております。大変このたびは申しわけありませんでした。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 今後の情報の出し方については、いろいろ気を使っていたきたいなというふうに再度申し上げます。

ラウンドアバウトについて少し確認をさせていただきたいのですが、さっき説明でもちょっとダブる部分もあるのかしれませんが、第1点、借地でいくと、足りない部分については借地、50平米ですか、で3カ所というふうな説明あったわけですが、地権者については何人で、地権者の交渉については、これも今後交渉していくんだということによろしいですか、建設参事。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

ラウンドアバウトの交差点部分については、環状部分ですね、それについては、現在の交差点の中で間に合います。ただ、先ほど来出てます歩道を設置しなければなりませんので、その部分についての社会実験ですので借地が必要ということで、地権者につきましては、花作平山線の南北2名でございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 地権者2人ということでもあります。恐らく単価等については説明のあったとおりの算定基準に合わせた単価なんだろうなというふうに思いますけれども、ことしは、6月、これからの予算で6カ月ということですが、特に長井の場合は、これは市道の部分での歩道の借地ということなので、市で予算化をしていくというふうなことだと思いますが、道路でありますので、これは将来、永久的に借地でいくのか、その辺については、例えば、今回出ております公共施設の借地の問題等も絡み

ますので、この辺の考え方、方針についてはどうでしょうか。これは市長でいいのかな、建設参事から。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

借地については、あくまでも社会実験だから借地という考え方であります。この社会実験の検証があつて、これをずっと続けていこうという段階になれば、検証が終わって、それは買収させていただくというふうな方向で進んでいきたいと思っております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 今の回答であれば、28年度中に実験をして、29年度からは、本格的に残すか、やめるかの決断を今年度中にしながら、借地なり、土地の問題についても解消していくということまで理解してよろしいんですか、建設参事。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** そう考えていただいて結構でございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** ことしは何カ所かというふうな説明があるわけですが、今まで実験事業をして、やっぱりやめたというふうな例はありましたか。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** 確認はしておりませんが、そういう事例は恐らくないというふうに考えております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 雪国の冬期間の実験なので、これは非常に全国的にも貴重な資料というか、になんなべなというふうに期待もしておるわけですが、さっき蒲生議員からもあったように、どのぐらい見通しの問題とか標示の問題とか、さまざま課題が出てくると思っております。特に大きく迂回しながらの交差点ですので、道路

の標示、ラインの消耗度等、特に雪国なので除雪等の削れる部分も含めて考えると、かなり耐久性というか、心配だなというふうに、当然普通の道路のラインの消耗度も雪国については短いというふうには私は想像してるわけですが、その辺の検討は今どういうふうにご考慮されるのか。特にラウンドアバウトの標示については、きちんとした明確な標示がないと逆に混乱するというふうなこともありますので、説明いただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** ラウンドアバウトの効果の一番の導入効果というのは、やっぱり速度抑制の安全性というのが上げられると思います。その安全性というのは、やっぱり路面標示なり道路標識なりの視覚による判断というふうになると思いますので、その辺の路面標示等の維持管理については、今まで以上にちゃんとしていかなければならないというふうにご考慮しております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 一般的な道路のラインの耐久性というのはどのぐらいで、これはしてみねえとわかんねから、実験ですので、ラウンドアバウトの標示、ラインの耐久性についてはこれからということですが、一般的な道路のラインの耐久性はどのぐらいを今現在想定しておられますか。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

毎年、交通安全施設整備ということで、ライン等の敷設の予算を計上していただいておりますけども、大体降雪と除雪もありますので、3年ぐらいがラインが消える限界というか、消耗期間というふうにご考慮しております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 交通安全協会なり、さまざまな点検の中で、ラインが薄くなったりと

かを目視等も含めて更新をしてやんなべなというふうには思いますが、ぜひ、ここの交差点についてもラインが薄くなれば、逆に危ないというふうな交差点になりかねないなというふうにご心配しておりますので、その辺の予算措置なりも滞りなくしていただきたいなと思います。

あと、最後ですが、事故が多い交差点ということでは私も承知しております。ダム街道って俗に言う、いわゆる県道の縦路線とスキー場に行く道路であります。もう東西と南北が似たような道路幅で、今予定されている野川まなび館東の交差点も、似たような道路幅だということでご事故が多いというふうにご想像されるわけですが、例えばこの交差点を供用したときに、市道花作・平山線と横道であります平泉線、これどっち優先というふうにご公安というか、つまり私らは、今まではあそこの交差点は横道路、南北が優先ということで、東、西はとまるというふうにご思っております。次の南の交差点は、ダム街道のほうは逆なんです。このラウンドアバウトの道路の優先というのは、これはどうふうにご変化するのか、説明いただきたいと思っております。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

ラウンドアバウトについて、優先はございません。とにかく環道の中に入った車が最優先、その入った車のために一時停止なり徐行をしていく、それは東西、南北路線につきましても同じことでございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** わかりました。住民の方なり通行される方々が初めてのケースなので非常に戸惑うということでは、周知をいかにしていただくかと、これは地元に限らずですが、誰が通るかわからない交差点だし、道路でありますので、ぜひその辺については、地元の説明もですが、広域に実験をしておる部分を広報な

り情報発信をしていただいて、逆に、事故なり戸惑いが出ないように対策を十分に講じていただきたいなというふうに思います。

ぜひその辺については、今回の交差点改良はあくまでも実験なので、よければ、さっき市長からは、まちなかも含めて検討というふうなことがありましたが、むしろ100万円の補助金で2,200万円ほどですか、の事業で、これは補助金が少ないとかでなくて、自前でする部分についての住民、市民の安全対策については、もっともっと地元から要望がいっぱいあると思います、恐らく。例えばほかの市町村さ行くと、石畳の整備が景観を含めて整備されてる道路もあれば、例えば米沢や南陽あたりだと、道路周辺の狭いところについては、歩道をつくられないところについてはグリーンベルトとか、さまざま目視によるスピード抑制の対策がされてるほかの市町村もあります。

長井の場合だと、私の確認だと、館町の八文字屋さんの東の通りがグリーンベルトを両方なってるようですが、恐らく予算を考えれば、歩道拡張なんていうことはなかなか難しい現実が特に町場だとあると思います。本町なんかの大事業で歩道も改良するというふうな事業でもなければ難しい時代でありますので、そういう少しの予算で安全を確保されるような対策というのは地元からも恐らくいろいろ出てるとは思います、その辺の優先とか、について、これは最後に市長から、今回の交差点も含めてですが、市民の安全・安心の対策について地元の要望を含めて今後どうされるのか、お聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 小関議員おっしゃるように、地元からは、交通安全協会を含めて、あとはPTAとか地区長会からのご要望ということでたくさんいただいております。その安全・安心なまちづくりという面でいえば、歩道であったり、

あるいは交差点に信号をとということであったり、さまざまでございますが、私どものほうでは、ご要望をいただいたところを確認して、確かにこれは危険だとか、あるいは早く改良しなきゃいけないというところを優先順位を高くして、やっぱりこれは市内全域となりますと要望が何十、何百となりますので、それらを単独事業ではなくて、できるだけ社会資本総合整備事業などを活用してやっていきたい。今回については、社会的実験ということなものですから、そういった優先度とかを度外視して選定させていただいたところですが、今後とも、そういった地域の皆様の生活環境の整備について計画的に着実に進めるように努力してまいりたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ラウンドアバウト社会実験事業の経費の中で、委託料904万3,000円とありますが、この業務委託というのはどういう内容なのか、また、どのような先に委託を考えていらっしゃるのか、お聞きしたいと思います。建設参事、お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

この委託料というのは、交差点設計の詳細設計業務委託、それに検証する上での、先ほど申し上げましたけれども、定点カメラとか、そういう実験を検証するための実験の調査費、これを含めて904万3,000円を計上しているところでございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** いろいろ議員から質問、意見あったわけでありまして、この第4号に関しては、非常に悩ましい内容、提案だと、私はそれは率直に感じます。

同時に、当局のほうに苦言を呈したいなと思

いますのは、やはり当日提案というようなことで、私たちが研究、検証、そういう期間が極めて短い中で判断をせざるを得ないというのは、本当に正直な話、大変だなというふうに感じております。この地方創生の第一校舎に関しては、24日に初めてお聞きしました。それからこのロータリー交差点ですか、このことについては産業・建設常任委員会だけであって、半分の議員には何もないわけだね。そうしてみると、資料だけを参考にしてこれを判断しなきゃいけないというようなことで、本当に市民の方々がどういう考えでおられるんだろうかなということについては一切はかることができない中で、議員個人としてこれを判断するということについては、本当に自分自身で大変な作業だなと、そのように思っていますけども、その点について市長、見解をお願いします。

○**洪谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 町田議員のただいまのご質問、ご意見でございますけれども、今まで、例えば私どもの怠慢で当日提案というのものがあつたかもしれません。ただ、今回の場合は、地方創生推進交付金というのは、例えば、今回の6月議会の最終日提案しか当初からちょっと難しかったんですね。それは、ヒアリングというのがあって、5月に最初ヒアリングがあって、かなり厳しい指摘をされて採択が難しいということでもずっと来たんですが、その後、6月に入ってから再度やりとりしながら、どうやら何とかいける可能性が高くなってきたということで、その条件として予算の措置をなさというふうな、地方創生の推進交付金というのはそれぐらい、今までの行政の常識では考えられないぐらいの内容です。

今回も、6月17日締め切りの1次分ということなんですけども、これは全国で44の都道府県、都道府県でも3つ出してないわけですね。それから全国で604の市町村が申請してるという状

況でございます。1,000億円の予算に対して450億円の1次の要望があるということで、この後、2次要望、3次要望があるもんですから、全体で1,000億円の枠に対して多分2倍ぐらいまでは来るんだろうなと思ってます。そこで考えたときに、できるだけ1次募集というのは競争率が低いもんですから、そこで手を挙げさせていただきたいと。今回難しかったら、やっぱり2次募集という手はあつたと思うんです、9月か、10月ぐらい。ただ、そうなりますと、採択率も非常に低くなるということから、大変申しわけなかったんですが、今回の申請になりました。

あと、ラウンドアバウトについては、こないだの新聞報道の前日の午後に、私も県土整備部長から直接電話いただきまして、採択になりましたんでよろしくということで。そうすると、これ予算つけなきゃいけないのかなということがその場で初めてあって、いや、これはまずいだろうということだったんですが、やっぱりいろいろ聞いてみたら、全国で7カ所、しかも東北では山形県のうちだけだということなんで、じゃあ、採択してもらったんなら、まず、何とか議会にご理解いただいてやっていかなきゃいけないんじゃないかということで、今回、本当に申しわけありません、当日提案ということで、これだけの内容のものを短時間で全員で協議いただくというのは本当に心苦しいんですが、できるだけこういったことのないようにしていきたいと思いますが、何としても今回、特に第一校舎については唯一のチャンスだろうと。これがだめだったら、やっぱりあれはもう手をかけられないなど、そこまで考えておりますので、何とかご理解を賜りたいというふうに思います。大変申しわけございません。

○**洪谷佐輔議長** 15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** 協議会のほうでもいろいろ説明いただいたわけで、私も、この事業は正直いい悪いでいえば、いい事業だろうなとい

う判断をしたんですけれども、しかしながら、やはりトータルとして出費を伴う事業でありますので、その過程においてどのように動いていくのかということを中心に常議会のほうにも報告いただきながら進めていってほしいなど、そんなふうに言った記憶がございます。

竹田総合政策課長の説明の中で、単年度の事業採択になる予定ですという言葉が吐かれたんですけれども、それには変わらないのか、その点について確かめたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** 地方創生推進交付金につきましては、基本的には私どもで申請するものについては、先駆性の事業ということで、5年間のスパンで申請をいたします。ただ、計画書自体は5年間の計画書で出しますが、交付金のいわゆる補助申請につきましては毎年毎年の1年単位の申請になると。だから一回通ったから5年間がその総額が確約されるものではなくて、やはり、例えば長井市の例で申しますと、ことし調査事業をいたしますが、その結果によって来年度以降、修正が生じる場合は、その都度見直しをしながらよりよいものにつくり上げていくということになりますので、計画自体は5年間のモデルが認められますが、申請は毎年になるということでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** その点についてはわかりました。

それから、ロータリー交差点については、私は、いいのか悪いのか、正直言ってわかりません。ここでちょっとお聞きしたいんですけれども、市長は、こういう交差点を見たことがありますか、あるいは当局のほうでもそうした現場に行って研修をなされたということがあるかないか、お聞かせください。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 私は、図面で見たり、こういうものだというのでしかございません。担当のほうは、残念ながら担当のほうも、見たいんですが、ちょっと見てないと。ただし、昨年11月の講演会の際は、パワーポイントなどで随分写真等々でも説明があって、その第一人者と言われる中村先生から詳しく話を聞きました。もちろん悪いところもあるわけなんですけれども、それを踏まえて、普通信号はあそこは無理だろうと。ただ、何が一番いいかという、ラウンドアバウトというのに手を挙げてみようということだったわけでございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** いや、私は、少なくとも、私が今、判断できないと言ってるのは、なぜ判断できないかということは、やっぱり見てないからですよ。提案してくるほうも、現場を見てない、想像の域でこれを議論していくというのは本当に素晴らしいなと今思ってるんですけれども、蘇っているんですけれども、バイオマス発電のときもそうだったんでしょう、バイオマス発電のときね。もう本当に短期間のうちで決断をしなければいけないという状況の中でそれをやってきたという経過があるんで、少なくともやっぱり現場を見ると、何も市長に見てくれと言ってるんじゃないですけども、当局においては、少なくとも提案することに対しては現場確認をするというぐらいの初歩の作業だけはしてほしいなど、私はそう思います。

それから、いま1点だけ質問しますけれども、今、候補地が平野になっているわけですね。別に平野が悪いなんて私は申し上げておらないんですけども、全国の中で長井市が手を挙げたということであるならば、長井市の中で手を挙げさせたらいかがでしょうか、公募したらいかがでしょうか、私はそう思ってるんですね。何もあそこでないといけないということでもないし、それこそ適地はほかの地域にもあると思います

よ。私たちの地域でぜひしたいんです、したかったなんていうことないようになりたいなと思ったもんですから、その点について市長はいかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** このたびの社会実験の申請については、あそこの平山の場所を想定して言っておりますので、今回は社会実験ですので、それはそれでやっぱりこれから場所をというのは、手を挙げてもらってというのは難しいと思います。ただ、実際に社会実験じゃなくて、制度としてそれを活用してラウンドアバウトをつくるんだといった場合には、やっぱり要望をいただいて、その中から優先順位の高いところからやっていくということになりますので、今回はそういうふうにして実施してまいりたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** その点については了解しますが、やはりこういう交差点がすばらしいと言っている人方の地域に本当はつくるべきなんだろうなとは思うんですよ。全然わけのわからない地域じゃなくて、本当に知ってる、欲しいなという人方がおられるわけですから、本来はそういうところにつくっていくと。

これはいいんですけども。そして社会実験という私は言葉は極めて好きじゃないわけで、やっぱり命と財産にもかかわる事業なわけで、そこに実験されるというのは本当につらいなど、そんな感じしております。しかしながら、全国で7つのうちに入ったんですから、ぜひやってくださいということしか言わざるを得ません。私、わかんないんで、判断できないということしか言えません。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** まず、ラウンドアバウト社会実験のほうから質問したいと思います。

両方とも市道でありまして、この場所ですね、市道平泉線と、あと、東西の花作・平山線、ここは昨年5件の事故があったということで、これは正十字路で、道路線型が良好な見通しが良い平面交差点に同じ速度で走っていると、車がとまっているような現象、こないだ6月23日の産業・建設常任委員会協議会で、コリジョンコース現象というふう聞いたんですが、車がとまって見えるために事故が多いということで、先ほど市長の話もありましたが、この交差点ではなくて、この交差点よりも南側、ちょうど県道九野本木地山線との間にやはりこのような交差点があつて、そこで死亡事故が五、六年前に起きたということで、私、現場に行ってみてきたもんですから、軽トラックとダンプが出会い頭に衝突して死亡事故が起きてしまったと。これ同じようなコリジョンコース現象というふうなことで事故が起きたのではないかとこのように思っております。そのようなところにラウンドアバウトが建設されれば、交通安全として非常に有効ではないかと私、思っております。

また、市長が述べられたとおり、これから十日町の変形十字路というのは、なかなかずっと要望してて方策が見出せずに改良できないということの導入にもなるんじゃないかということで、後でもう一回、別のことで聞きたいんですが、2,200万円の一般財源の持ち出しというのは、ちょっときつのかなというふうな感じを持っております。

まず、1番目に聞きたいのは、6月23日の協議会では、このラウンドアバウト社会実験協議会委員の報酬として一般の方2人ということで予算措置されてますが、1名は地区代表だということで聞いて、もう1名の答弁はなかったんですが、私は、ぜひ交通安全協会の方に委員になっていただきたいなと思ってるんですが、これはこないだ答弁しました建設課長から答弁をお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 多田茂之建設課長。

○**多田茂之建設課長** お答えします。

今後、この事業をやっていく上で協議会を結成していく予定でおりますが、今、宇津木議員からあったように、交通安全協会とか地元の方を入れて十分に意見を聞いていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 交通安全協会の方に入っていて、この実験が安全に行われるように、ご意見なんかとか、あと、入っていただくこと自体がアナウンス効果で、安全協会としても、この部分がラウンドアバウトに新たに変わるということで、非常に交通安全の啓蒙になるのではないかと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

あともう1点ですが、23日の協議会のときは、補助金の100万円を引くと2,220万円ですが、これが全て一般財源だということですが、起債を起させないかということで質問があったんですが、そのときは、まだ調査中ということで、これ財政課長に聞いたらいいいんだか、じゃあ、財政課長、お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 渡邊洋男財政課長。

○**渡邊洋男財政課長** お答えいたします。

補助額が100万円と少なかったということで、時間のない中ですが、いわゆる起債の所管課として県の市町村課のほうに、担当の建設課とは別に問い合わせをしております。社会実験事業であるからかなという部分はございますけれども、何より有利な後年度償還に対して交付税措置があるような起債の可能性もしくは実例ですね、ないかというのをずっと問い合わせしておりますけれども、今のところちょっと見出せないということの回答をいただいております。今後とも、ございましたらご連絡いただけますようにということでご回答を得ているところでございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** ぜひ有利な起債を探していただいて、できるだけ一般財源の支出がないような形で補正していただければありがたいなというふうに思います。このラウンドアバウト、雪国では余りないということで、いただいた資料によると、やはり雪が少ないところが多いということで、非常に雪国のモデルケースになるのではないかと思いますので、期待したいと思います。

次に、長井小学校の第一校舎の活用なんですが、長井小学校の第一校舎は、最初は職員室が入るということで全額で6億2,000万円ということだったんですが、今度は職員室が入らないで、また別なところに職員室をつくるというのは、どうも私は納得できない状態です。免震するんだから職員室を、西側の2階の会議室だとグラウンドが見えると、そういうふうな検討はできないのかなと思うんです。やはりできるだけ予算は少なくしていただいて、もっともっと公共施設の整備とかにお金がかかるわけですので、免震化になった第一校舎の西側に職員室と校長室とか事務室をそちらに集めて、一般開放するところと仕切りをつくって、一般開放と管理部門を別なスペースとして利用するということはできないのかと思います。第一校舎と第二校舎、今つながってますが、あと、トイレもつながってます。それを切り離れた形だと免震工事が低く抑えられないか、市長はそういう考えはないか、お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 宇津木議員からのご提言でございますが、確かに今の第一校舎を学校施設として使うという選択があるんですけども、その場合は、先ほども申し上げましたけれども、多分ここからここは端のほうだけ学校施設で、こっちは学校施設でないよというわけにはいかならうと。そうしますと、第一校舎そのもの

を学校施設として使わざるを得ないと。その場合の免震工事あるいは大規模改修の補助率というのは、大体5%程度にしかならないと。しかも残りの起債については交付税措置が期待できないということから、非常に重い負担の事業だなと思っています。

一方で、昇降口とかあそこについては、少し手直しはしたんですけども、やはり将来のことも考えれば、いずれ、相当古い建物ですので、建てなきゃいけない、直さなきゃいけないと。あと、体育館までの導入部分が非常に渡り廊下なども雨漏りしたり傷んでいるということから、そちらも手をつけなきゃいけない。将来的に長井小学校の第一校舎を校舎として使うのは、何年間使えるかですけども、免震、耐震しただけで使わなきゃいけないわけですけども、いずれまた学校としての投資をしなきゃいけないと思っています。

したがって、今回は、補正で手を挙げたわけですね、28年度の予算で文科省のほうから補助をいただきたいということだったんですけど、残念ながらこれはだめだということで、27年度の補正で採択はしてもらったんですけど、もう学校施設としての第一校舎は私の中では諦めたと、断念したと。これは教育委員会も同じ考えだと思っています。したがって、これから第一校舎を活用する場合は、もう学校施設としては使わないということしか選択の余地はないだろうと思って、その地方創生の推進交付金で違う使い方。したがって、これからは、どういう形でいかに有利な財源で学校施設としての職員室、管理棟をつくるか、あと、第一校舎を有利な形で、しかも市民みんなに使っていただくような、学校施設じゃないんですけども、文化教育施設として使っていくかということで今のところ整理しているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 合同の協議会のときに、

第一校舎ですね、これは普通財産になるんですかってお尋ねしたら、教育財産だという回答だったもんですから、同じ教育財産であれば、学校の施設も入れるんじゃないかということを考えてみたんですが、市長の言うとおりのかもしれませんが、今回ぜひ検討していただいて、そういう方向もあるんでないかということで、調査ということで、検討していただければと思います。

最後ですが、学校から切り離すという市長のお話ですが、そうなったらトリムコースとか慈愛の森とか学校と一体となっているものがどのようになるか、子供の安全も含めてこれからの検討だと思いますが、その辺についてもぜひ今後ご検討いただければと思います。市長。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 宇津木議員おっしゃるとおりに教育施設ということで、幅広い教育施設だと思うんですが、それを学校として切り離した場合、第一校舎だけ切り離しても、周りは長井小学校の敷地でいわゆる学校の施設でありますので、その部分をどういうふうにして子供たちに危険が及ばないように、また、市民もうまく活用できるようにいろいろ検討させていただいて、皆様からご意見をいただくようにしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 市長から先ほど答弁あったんですが、途中で断念もあるかもしれないという長井小学校の活用策、検討した結果、だめだったらだめで、勇気ある決断もぜひしていただきたいと思います。終わります。

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩します。再開は午後1時といたします。

午後 0時00分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

議案第47号の質疑を続行いたします。

ほかにご質疑ございませんか。

5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 長井小学校の第一校舎の件で少しお聞きをしたいというふうに思います。

教育委員会のこれまでのスタンスであります。第一校舎は当面、学校施設として残すというふうな、そういう判断であったわけでありす。3月の最終日提案についても、管理棟として残すために免震化を進めるというものだったというふうに思っております。それが今回は学校施設から外すというふうな判断であります。教育委員会でどのような経過で今回外すというふうになったのかを教育長にお聞きをしたいというふうに思います。

3月補正を見送ったのは庁議で判断したというふうな答弁があったわけでありす。今回も庁議の判断だったのかというふうなところも含めてお聞きをしたいと思ひます。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 質問にお答えいたします。

教育委員会としては、第一校舎の免震化、そしてその活用ということで、いろいろとそれまでの経緯があったわけでありす。

議員の皆さんからは、第一校舎が管理棟としては、子供の活動場所から離れているため、その点については不適當なのじゃないかというご意見などもありました。あと、またそういうことを受けて、今の二校舎との、体育館とのつながり部分である昇降口、そこを解体して一体型として整備すべきでないかという、そういう論もございました。

ただ、財政負担という面から考えたときに、補助が見込めないという、当時も検討したわけ

であります昇降口と管理棟の一体化ということについては協議して、その経緯の中で補助が見込めないんでないかというところがございました。そして、選択肢の中で免震化をして、学校施設として使うということであれば、老朽化改造というんですか、大規模改修ですか、その費目で補助が3分の1でつくという、そういう見込みでずっと進んでまいりまして、3月の末になかなかその内示が来なかったわけでありすけども、結果として、途中で市長さんのほうにお願いをして、国会議員の皆さんなどの協力も得ながら、何とか補助単価を上積みしていただけないかというお願いなどもしていただきました。ただ、結果として、国のほうから来た内示では、2年間で6億2,000万円のうちの2,000万円分が補助として来ると、2年分です。交付税を見ても3,000万円ちょっとぐらいというように、これについてはこのまま進めることは財政負担が大き過ぎるのではないかということで、庁議でそこについては判断をせざるを得なかったという、そういう経過でございます。

それを受けて取り下げたという、見送ったわけでありす。そうしたときに、教育委員会としては、文部科学省の補助を一旦いただけるという見通しのものをお返りするわけでありすので、同じ建物でまたそこを職員室として使うので補助をつけてくださいということについては、この後ないというふうに判断をしたところでございます。それゆえに、今回の提案という、ただ、このままにしておけば朽ちるだけだということで、何とかその活用策はないかというところで、今回の予算上程というふうになったということでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 教育委員会、毎月定例会をやっていると思うんですが、今回の学校施設から外すというふうな中にも、定例教育委員会が臨時教育委員会等を開催して、学校施設か

ら外すというふうな判断をされたというふうなところも当然あると思うんですが、その辺の教育委員会の開催等について、教育長に再度お聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 学校施設から外すということについては、第一校舎を職員室として免震化を図って整備するということについても、当初から考えていたとき、その折にも10年ぐらい使って、その後に切り離すという、そういう計画でございました。そして、文化施設として広く使っていきたいという、そういう計画は立てていたわけでありまして、それが当初の計画と変わってきたわけでありまして、職員室としては使えないという結論が出たわけでありまして、その部分が早まったという、そういう認識でございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** その部分の決断をしたときの教育委員会として合議したというふうに思うんですが、そういった合議体ということで結論を出されたというふうなことでよろしいんですか。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 見送った時点でその判断はしたというふうに認識しております。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 3月補正で文科省の予算がついたけども、それを断ったという時点で、学校施設から外さざるを得なかったというふうなことでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** まだ活用の具体的なものは定まってませんので、今も学校施設として教育財産の中に存在しておりますので、その部分の手続は進んでおりませんが、考え方としては、いわゆる職員室管理棟として使うということではなく、もっと広い形で使うべきだろうというふう

に考えます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 教育委員会も一つの合議体でありますので、その辺の何か少し薄い感じが、ちょっとずっとこの間したもんでから、その辺のところを確認したいというふうなことで質問を申し上げました。

次に、第一校舎の免震化事業費約6億2,000万円というふうなことでありますが、今回の予算計上の中では、起債充当率90%で、交付税算入率30%、約1億6,000万円が補助等で入ると、交付税算入で約1億6,000万円入ると。差し引き、長井市負担が約4億6,000万円になるわけです。

先ほども教育長のほうの答弁からありましたが、文科省の補助を受けて免震化工事をする、文科省補助が約2,200万円、2カ年でそれぐらい。あと交付税措置が3,300万円ぐらいで、合計5,500万円ぐらいの補助が入るということで、長井市負担が約5億6,500万円ぐらいかなというふうにちょっと見たところですよ。

その差が約1億円なわけですが、長井市負担が約4億6,000万円、今回の部分。文科省のところを受けると、長井市負担が約5億6,000万円。その差1億円の部分で、この1億円補助が多くなったので、この事業を受けるというふうなことのようでありまして、この4億6,000万円の長井市の負担について、今度市長に、その部分についてどのようにお考えなのかお聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

1億円余計に見込めるから整備するというのではございません。

まず1つ、かなり複雑で、いろんな経過があるものですから、ちょっと長くなって恐縮なんですけど、最初の計画ですと、第一校舎をもう少し使おうと、10年ぐらい使って、その後に第二

校舎、第三校舎を一つにまとめようと。それを補助で建てて、そもそも職員室管理棟の部分については、どうやら対象にならないようだということから、体育館と第二校舎、第三校舎を結ぶ今の昇降口の部分を管理棟として、あそこですと、グラウンドも見えるし、子供たちの登下校も見えるということで、一番それがいい形じゃないかということで、計画を教育委員会と立てたのが今から五、六年前です。

全部耐震化が終わりまして、長井小学校の第一校舎だけ残ったと。じゃあ、いよいよ職員室として10年ぐらい使えるように補強しよう。その後は、学校施設として切り離して、文教施設として使っていこうというふうに考えておったんですが、調査をしたところ、思った以上に弱かったと。工事が免震しかなかったと。いろいろその後も検討したんですけども、せいぜい免震工事でないやり方したとしても、大体免震工事のほうは4億円ですね。6億2,000万円というのは、免震とあわせて大規模改修の中の古くなった部分やら、あと電気とかエアコンを入れたりとか、全部含めて6億2,000万円なんですけども、その4億円の部分に免震工事じゃなくて違う手法をやったとしても、せいぜい四、五千万円ぐらいしか節約できないと。しかも、ちょっと工法的には難しいということもあって、免震でいったところだったんですね。

何とか、補助単価が低いもんですから、実際立てるとしたら、免震工事するとしたら、例えばですけども、坪単価100万円ぐらい見なきゃいけないところを、文科省のほうの補助対象単価が9万円ぐらいなんです、坪単価。もう全然合わないですね。これではだめだということで、地元の国会議員はもちろんですが、文科省とあと財務省にもお邪魔して、いろいろお願いしたんですが、残念ながら補助単価のかさ上げというか、認めてもらえなかった。ただ、幸いなことに、補正で認めていただいたもんですから、

交付税措置が少しあると。じゃないと、6億2,000万円のうち2,000万円しか対象にならないって、これではしょうがないということで、教育委員会とも相談して、これはもう学校としては使えないという判断を下したんです。

それで、したがって、第一校舎を切り離して、長井小学校の学校としてのやっぱり機能ということで考えた場合、いつまでもプレハブの職員室もだめだろうと。第二校舎、第三校舎の中に職員室とか会議室つくれないかということで何回も検討したんですが、かなり厳しいということなもんですから、それはそれで単独でやっぱり立てざるを得ないだろうということで、これは以前に大体7億円ぐらいという数字出ていたんですが、もう少し節約して五、六億円できないかということで整理をしたところだったんです。

いずれにしろ第一校舎については、登録有形文化財ですから、あのまま朽ちるのを見てるっていうわけにもいかないので、何かいい方法ないだろうかということで、今回の議会、一般質問の中でも、やっぱり長井の歴史がわかるようなものとか、あるいは教育を教えるものとか、学びの、何でしょうか、貴重な建物としてうまく活用しようという案が出ましたけども、私どもも地方創生の推進交付金というのが、概要がわかったのは4月なんですけども、これだったらもしかしたら何らかの形で可能性があるということで、今回は利用方法についての調査費ということで1,500万円計上させてもらったんですが、それでまず利用法を考えながら、市民の皆様からもご理解いただいたら、あわせて耐震・免震化の大規模改修の工事をしようというのが今回の考え方です。

したがって、本当に長ったらしくて申しわけないんですが、その不足する財源が5億円何がしあるということなんですけども、5億円ぐらいまでないわけですが、4億5,000万円ぐ

らいですね。そこについては、今度はクラウドファンディングということで寄附も募ることができますし、学校施設としてはなかなか難しいので、それとあわせて、国のほうの地方創生の推進交付金も、最初はソフトなんですけど、ハードの部分もある程度認めていただけると。ただ、免震の部分については純粹に市でしなきゃいけないもんですから、その財源的なところは厳しいんですけども、もうそういうふうにして残していかざるを得ないだろうというふうに思っているところです。

なお、管理棟の部分も、これはまた別途、負担は大きいんですけども、これを今回、大変なんですけども整理しながら、ここ四、五年ぐらいでもし終わることができたら、まず20年ぐらいは学校のほうは、あと南北中は残ってますが、あとは市のほうでお金を余りかけずにやっていけるだろうと。それは次の世代にお願いしたいということで、ここまでしないと、やっぱりせっかく先人から受け継いだ第一校舎をそのままというわけにはいかないんじゃないかということで、今回予算を計上させていただいたところです。

長くなって申しわけありませんが、以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 管理棟を第一校舎から外して、将来的には昇降口を改造して、あそこに整備するというふうな部分については私も大賛成であります。ただ、この時期に第一校舎を免震化して、最初に免震化しようというのが、管理棟をそこに置くというふうなところから発想になっているので、それが切り離しをしながら、じゃあまた別のものでも活用していくというふうな話に切りかわっているんで、その部分の切りかえの部分が、ちょっといま一つ入ってこない部分あるわけですけども、当面耐震・免震化するのであれば、管理棟もそこに置けるという

ふうなことなどもやっぱり考えられるのかなというふうにはちょっと、でも、もうだめだごでね、文科省のあれを断ったということでは。

それでは、長井市の負担が約4億6,000万円かかると、負担しなければならないというふうな部分ですが、これの部分をやっぱり圧縮するような、幾らでも少なくする努力をしなければならないというふうに思うんですが、ここの議場内にも、長井小学校1万3,000人のOBの方いらっしゃるんですけども、いっぱい、たくさんいらっしゃると思いますが、そうした卒業生の皆さんが、あの場所を、校舎を残してもらいたいというような、そういう声が余り聞こえてこないように思ったりもするんですけども、その辺の卒業生の思いを、例えば寄附とか基金とかそういったものの形にして協力してもらえるようなものなどを考えていけないものかどうか、それについて市長の見解をお聞きしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 平議員おっしゃるように、まだ盛り上がりというのは全くないんですけども、実際第一校舎をいろいろ整備しようということについては、まだ議会の今回議決をいただかないと我々の決定ではないと思っていますから、余り外には出してないわけですね。

歴代のPTAの役員の方、会長初めその方たちと1回懇談を持って、あと歴代の校長先生方と懇談を持ってご意見をいただきました。その程度に今しておりますが、校長先生方も、あるいはPTAの皆様も残して、あそこは慈愛の森という特に長井小学校の教育のシンボルだから、ぜひ残してほしいと。ただ、管理棟のほう、本来の学校のほうも、それも大変だろうけど整備してほしいと。

今後、資金的な部分です、第一校舎。それについては、やっぱりみんなでどういう利用の仕方をするか、あるいはどういうふうにして寄附

を募るか、そういったことはみんなでこれからも話ししていこうというような結論でございまして、私どもとしては、まずは今回お認めいただいたとしたら、市民の皆様にも広くお知らせしながら、やはりおっしゃるように、ガバメントクラウドファンディングということで、ふるさと納税の目的をしっかりと示しながら、単なる寄附だけじゃなくて何らかの形で、何でしょうか、物を送ったりはできないんですけども、寄附していただいた方の意思が何らかの形で生きるように、そういう方法などを考えていきたいと思っておりますし、ちょっとこれは難しかったようなんですが、いわゆる企業版のふるさと納税、クラウドファンディングについても検討したいと思っております。なかなかこれ難しいもんですから、地域再生計画をもう一回立てなきゃいけない。それに基づいて、企業からふるさと納税を受けるということでございますので、目標としてどのぐらいの金額にしたらいいかですけども、そんなこともしながら、極力私ども市の負担が少なくなるような、そういった手法を考えていきたいと思っております。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 歴代の校長先生とかPTAの会長さん方、役員の方については、第一校舎については残してもらいたいという思いがやっぱり強いんだらうというふうに、当然だと思うんですが、そのほかの卒業生の皆さんがどういふような思いなのかというところもやっぱりあるというふうに思いますが、教育委員長さんに突然質問してあれなんです、第一校舎に対する加藤教育委員長さんとしての、その思いの部分はどいったものなのか、ちょっとお聞かせいただきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 加藤弘二教育委員長。

○**加藤弘二教育委員長** お答え申し上げます。

教育委員会としましても、この問題について十分話をさせていただきました。

思いとしては、古い校舎というのは本当に全国的にも価値があるものですから、私は子供たちにあの校舎を使ってもらいたいというのが本当の思いであります。あそこを床を磨いて、今までずっと子供たちは磨いてくれたんで、ぴかぴかですよ。あれがなくなる、そういう行為というか、それを使うことによって、さまざま学ぶわけですよ、古いよきものというか、木の価値というか、古くなれば古くなるほど価値が出るというか、そういうことを子供たちは自然に学ぶと思うんですよ。大事にする心、物を大事にするという心をやっぱり学んでいくと思う。そういう意味で、長井小学校の校舎というのは残して、子供たちに使わせたいというのが教育委員会としての最初の考えでありました。ですから、ずっとそこまで、市長さんとか教育長から答弁ありましたように、そういう考えでずっと進んできたんだというふうに思っております。

ところが、何といっても一番の財政というか、お金がかかるというようなことありますので、そのときにこういう考えだというようなことで教育長から提案あったときに、教育委員としても十分に話をして、非常に残念であるけども、断念せざるを得ないというふうな思いに至ったわけでありまして。そういう思いであります。ありがとうございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 4億6,000万円の長井市負担の部分をいかに圧縮するかというふうなところが、これから事業を展開する上で一番大事だというふうに思います。その部分では、先ほど申し上げましたように、卒業生の皆さん、そして市民の皆さん、それ以外の皆さん、それから先ほど市長からありましたガバメントクラウドファンディング、ふるさと納税の、私この間一般質問したときの、目玉の部分に上げるというようなこともあるのか、それともまた別個に

するのか、これなども検討の一つなのかなと思いますが、ぜひそうしたところも検討していただいて事業展開していただくように、そして今回の調査を進めていただくようお願いをしたいと思います。終わります。

○**渋谷佐輔議長** 12番 五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 長井小学校第一校舎の件でお尋ねします。

私も卒業生でありまして、第一校舎の床を一生懸命磨いたものでございます。6年生のときは羽越水害に遭いまして、床上浸水、皆さんも覚えていらっしゃる方もいらっしゃると思いますが、思い出深い校舎のことで論議できるのは幸せだなと思います。

政治家ですので、寄附行為はできませんので残念です。別の視点からちょっとお届けしたいと思います。

最初に、竹田総合政策課長にお尋ねしますけど、説明会で、地方創生推進交付金を活用し、長井小学校第一校舎を、学びをテーマにした新たな集客施設として整備するものである。観光交流センターからまちなかへの交流人口の誘客を図るとともに、にぎわいを創出することにより、民間による中心市街地への投資を呼び込む事業とすると説明があつて、その後、いろいろ校舎活用の事務局案について説明があつたわけですけども、来年の春に観光交流センターがオープンするわけですが、最近、朝日町の道の駅りんごの森、これは道の駅で、6億3,000万円を事業費ですね、5月には川西町、これは道の駅じゃないですけども、森のマルシェ、これ6次産業化を図るという目的で、4.2億円をかけて第三セクターで運営しているということですが、竹田課長にお尋ねしますけども、参考までに、この2つの施設見てこられましたか。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。

川西町の森のマルシェと、あと朝日町の道の

駅でございますけども、森のマルシェのほうは1度、オープンして間もないころ、あともう1カ所の朝日町のほうは、これまで多分5回か10回ぐらい訪れて見ております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 12番 五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** やっぱり事業をするときには見に行かないとだめですね。

両方に行かれたということですが、印象はどうですか。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** まず、近いほうから言いますが、1回しか行ってないんですけども、あと森のマルシェのほうは、意外に人が入っていないなという印象を受けております。あと、置いてあるものが、意外に地場産品の農産物が少ないという印象を受けております。

あともう一方の朝日町でございますが、実はリンゴが私も好きでございまして、リンゴを買いに行きましたが、もう買える状態じゃないぐらい混んでいるというリンゴの季節ではございました。リンゴの季節は3回ぐらい行きました。

あと、ただ、行ってみて並んだんですけども、やはり非常に高額なリンゴがなくて、いわゆる日常食べるようなリンゴだけだなという印象がございまして。あと、それ以外に、例えば鶴岡市とか寒河江市とかいろいろなところに見に行ったときに、ついでに朝日町の道の駅は寄りますが、やはりリンゴの季節以外は意外に地場産品が少ないという印象はを受けております。

ただ、人は、リンゴの季節はとんでも、表現は非常に悪いんですけども、入らないほど人がおりました。あと、それ以外の季節についても、やっぱり常に10人、20人いるような状態で、あそこにしては意外に入っているのかなという印象を受けております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 12番 五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 私も川西町には4回、

昨日も行ってきました。朝日町のりんごの森も5回ぐらいお邪魔しております。最初できたときのオープン2日目ぐらいに行ったときは、りんごがあったので大繁盛していたようですが、最近お訪ねしますと、非常にお客様が少なく、森のマルシェにつきましては、新聞紙上にもありましたけれども、客単価が900円台ぐらいだなんてことで、お客様の声では、大変近くのまちのことで失礼ですけども、買う物が無いというふうなことで、果たしてこれが成功事例かなと言えるのかなというふうに思っているんですね。

やはりどちらも行政が絡んでいますので、責任の所在が曖昧で、第三セクターだから私がやらなくちゃいけないなんていう活気とか、そういうのがあんまり感じられなかった。ですから、もちろん今後努力なさると思うんですけども、長井の観光交流センターもこうならないように私は願っているんですね。ここで、地域再生地を中心として観光交流センターがあるわけですから、今回の長井小学校の一連の今後の計画も、これに資するためには、どういった方向でやればいいのかと私、考えております。

竹田課長にもう一度、観光交流センターの件でお尋ねしますけども、今後何と何と何を売り物にして進めようとしていらっしゃるのか。市長にいいですか、どうしますか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 観光交流センターの件ですので、私のほうから答弁させていただきます。

観光交流センターについては、基本にご承知のとおり菜なポート、それからタスの物産館、そしてフードコーナーということが三本柱なんですけど、そこに長井の旬だったり、あるいは歴史や周りの自然の風景、長井の名物の紹介などもさせていただきま。

一番のポイントは、あそこの中にいわゆるやまがた長井観光局と観光協会、また、最終的な

レイアウトはできておりませんが、観光ボランティアガイドの方たちにも協力いただいて、単なる道の駅でなく、ぜひまちなかの長井のいいところをごらんいただきたいというようなことを、観光ポータルサイトはもちろんですが、いらした方にも紹介しながらというのが売りでございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 12番 五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** よくわかりました。

そこで、私も昨年来、まちなかのにぎわいということで、タウンセンターのことから何からいろいろ提案してまいったんですけども、これはやはり、市長の思い入れはわかるんですけども、果たしてそれを、市外、県外からいらっしゃった方に受け入れていただいて、にぎわいがあるかということだと思います。

やはり勝手にこだわっているのは受け入れてただけなのかと、これは朝日町にばかり、川西町にばかり、他の県内の道の駅にばかりだと思うんですね。やはり繁盛してないところを見ると、何か最初の思い入れがどっかに行っちゃって、ただの売店になっているようなこともありますし、ここは非常に気をつけなくてはならないと思いますが、市長、いかがですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 五十嵐議員おっしゃるとおり、結局そもそもの目的は、もちろん地域の物産の販売とかお土産をどんどん売って地域経済を活性化させるということなんですけど、あわせて中心市街地の活性化に資するものという考え方でやっておりますので、いかにまちなかに誘導するかということで、そこがちょっと弱いというふうに思っておりましたので、今回の長井小学校の第一校舎というのは、ちょうどそこにつながる重要な拠点の一つになるなということから、地方創生の推進交付金を活用できるんじゃないかと、しかも先進事例として、教育の施設ですから、そこでどういうふうにして、地方創生つ

て稼ぐってというのが一つのキーワードでございますので、稼ぐような施設にしていくかということが課題だと思っています。

○**渋谷佐輔議長** 12番 五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** タスの物産、お土産を販売しているところですね、非常に元気がなくて、いつの時間帯もいろいろ批判もありましたし、菜なポートもちろん大変地場産品のいいものを売っているんですが、白鷹町のどおりいむ農園に、飯豊町の道の駅、あちらのほうは量的にたくさんありますよね。ですから、こちらは、どちらかといいますと、菜なポートは長井市民の方が主にお買いになっている。これからも場所が変わっても、その割合は、市外の方ふえるかもしれませんが、中心的になるのは市民の方かなと私思っています。

フードコーナー、そばとかカレーとか出しても、そんなに珍しくありませんし、やっぱりその程度ではなかなか競争勝ち抜けない。であれば、まちなかに来て観光、これをしようやという目的も崩れてしまうと思いますので、今回長井小学校の利用なんですけども、昨年、長井の学校給食、これが全国の甲子園ですか、学校給食甲子園、これで山形県代表になって大変高い評価を得ましたよね。これについて、では教育参事、横山教育参事にお尋ねしますけども、どんな内容でこれ全国に行ったんですか。

○**渋谷佐輔議長** 五十嵐議員に申し上げます。

議案について関連した質問でお願いしたいと思います。

○**12番 五十嵐智洋議員** 関連してます。

○**渋谷佐輔議長** 横山賢一教育参事。

○**横山賢一教育参事** お答えいたします。

学校給食の部分の甲子園の部分であります、地産地消というようなところでありまして、馬のかみしめのごはんであったりというようなところをメインに、大変おいしくつくられた給食であったのかなというふうに思っています。以

前、伊佐沢小学校のほうに県のほうの教育長さん等々お見えになった際は、そういうふうな、かみしめごはんというようなところをご提供させていただきながら、大変おいしくいただいております。

でして、ただ、残念なことに、全国大会ではちょっと入賞できなかったわけなんです、ぜひそういうふうな形でおいしい給食づくりを目指しながら、鋭意努力してまいりたいなというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 12番 五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 関係なくないんです。

事業概要ということで、居心地のいい空間の提供もできるということで、ブックカフェ、ギャラリー、フリースペース等ができるということで、私は飲食ができますかというふうに質問したら、できないとはあれですよ、そういう前提でお尋ねしているんです。

それで、卒業生が1万3,000人ということでしたけども、長井小学校は創立135周年だと思えますから、単純に卒業生ちょっと考えますと、もっと多いと思うんですが、教育長いかがですか、1万3,000人という卒業生は少なくないですか。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 今、手元にデータなくてありますが、1万3,000人というのは、長井市になってからの卒業生の人数というふうに認識しております。

○**加藤芳秀教育長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** ありがとうございます。

それで、長井小学校は、昭和36年に完全給食になりまして、私が1年生で入ったときから学校給食は完全給食になったんです。最初は脱脂粉乳を提供いただいて、あれを飲んだから身長が大きくなったのかなと思っていますけども、

昭和40年からは脱脂粉乳は終わって瓶の牛乳になった、こういう歴史があるんですね。すごく懐かしい給食も、私たち卒業生にとっては懐かしい思い出です。

それで、市長にもう一度向いて、フードコーナーを、観光交流センターありますから、学校給食を、例えば賞もとった、レインボープランのものも使っている、そういった給食を観光交流センターで提供すると、500円ぐらいで。そして、卒業生も懐かしく食べに来る、こっちは長井小学校の文化施設を見に行こうじゃないか、そういった柔軟な発想を私すべきだと思うんですが、アイデアとしていかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** アイデアとしては、ぜひ、学校給食というのはやっぱり懐かしいですし、食べてみたいということで、結構繁盛するんじゃないかと思います。

観光交流センターのほうは、残念ながらそんなに大きいスペースがないので、どちらかというとアスパラ麺とか、あとは馬のかみしめとか、そういう地元のものをつくって、まちなかで出していないようなメニューのものを出したいと。

長井小学校の第一校舎については、レストランとか、あとブックカフェとか、いろんな案が上がっていますが、そういったものも、あのぐらい広い施設ですからつくりまして、そこにはぜひ学校給食というような声も上がっていますので、ぜひ検討の中で、そういったところをいろいろ総合的に勘案して固めていきたいなと思っていますところ。

○**渋谷佐輔議長** そのほかございませんか。

10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間瀧広議員** たくさんの方々質問されて、私ほとんどダブっておるんですけども、二、三質問させていただきたいと思います。

先ほど町田議員も苦言と称して、市長に当日提案で当日判断しろということは大変遺憾であ

るというようなお話しされたわけですが、全くそのとおりでなというふうに私も思っております。

私どもがお聞きしたのは、まず6月23日、これがラウンドアバウトの実験ですか。それから24日に今回、総務・文教の連合協議会で説明あったわけですが、1週間ぐらい、6日ぐらいで判断しろというのは大変難しいということでございます。市長にはいろいろ先ほど返答いただきましたので、それはそれで、それ以上の回答はないと思いますので、それはそれでいいということにいたします。

ラウンドアバウトに関してでございますが、始めてお聞きしたとき、2,320万円、あれだけのことに2,320万円もかかるのかというのが、初めてお聞きしたときの第一印象でございます。実験だからいいのか、でも、社会実験だからいいのかというところが、私、どうもこれひっかかってわかんないんですけども、そういうふうな名前がつけば、何か常に採択されるっつうか、尻もつついて何でもやっていくのかということに対して大変疑問を感じているところでございます。その辺のことについて、経過というか、もう少し、これは交差点の改良、実験と称して2,320万円を使うんだということを、やっぱりもう少し市民の方にも理解をいただかなければならないと思うんです。その辺のことをもう少し詳しく教えていただければなというふうに思います。

建設参事、よろしいですか。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。重複する部分もございますが、よろしく申し上げます。

先ほど来お話ししておりますけれども、現在、交通社会において、信号機の設置要望というのはなかなかかなわないというのが現実でございます。長井市としまして、安全・安心なまちづくりをする上で、多角的な方面から施策を取り

込んでいかなければならないということで、今回、社会的実験に申請したということでございます。

2,320万円というお金はかかるわけですが、これは実験と申しましても、完全に安全な走行ができるような措置をとらなければなりません。単なる実験として、何の施設も施さないうで通すということではできないわけでございます。先ほど申しました路面標示なり、あと警戒標識なり、あとそれぞれの実験もございませうけれども、それをした上での2,320万円ということでございませうので、ちょっとこれが高いとかそういうことではありませうので、ご理解願いたいたと思ひます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間瀧広議員** わかりました。

そして、やるとなると、やっぱりある程度周知期間というのが大変重要になってくると思ひます。その周知期間についても、よっぽど前もって言うておかなきゃならないと思ひます。

私が心配しているのは、実験期間中に安全を確保して、担保してという話なんですけども、万が一それ事故なんか起きた場合、今までどおりだったら事故がなかったのに、そういう実験をしたから事故になったんだというような意見が、万が一事故なんかあったら、そういう話が出てくると思ひます。そのときの責任の所在とかっていうのは、そういうのも全て考えて、例えば人の配置、ある程度、何ていうんですか、わかるまで周知、文書で周知しただけじゃだめだと思ひますよね。現場である程度指導なりも、毎日それも朝から晩までしてもらわないとだめなんじゃないかなというふうに通ひます。けれども、その辺のお考えはどういうふうに通ひ、どうなっていますか。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

周知については、仮設工事始まる前、もうす

ぐにでも、し始めなければならぬというふうに通ひております。

あと、実験期間中の交通安全の件でございませうけれども、当然これは公安委員会の交差点の許可をとらなければならぬです。ですから、指導管理者が全ての責任を負うというわけではございませうので、そこら辺は公安委員会と協力しながら実験を進めていきたいというふうに通ひております。

特に冬期間、先ほど申しましたけれども、冬期間の圧雪状態のときの交通安全、そこら辺については、除雪等を含めて、細心の注意を払って行っていくたいというふうに通ひております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間瀧広議員** 本当に事故というのが一番心配だと思ひます。その安全の配慮に関しては細心の注意っていうんですか、ぜひ人任せとか、先ほどモニターで監視カメラがあるとかというお話も言てましたけども、そういう機械に頼ることだけでなく、しっかりと安全の確保をお願いしたいなというふうに通ひます。

これについては、総括していただいて、市長のほうから何か申し述べることがありましたら、ぜひお願い申し上げます。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** それでは、申し述べさせていただきます。

確かに赤間議員おっしゃるように通ひ心配は尽きないわけですが、ちょっと私も今度、建設課の職員を励ましたいと思ひますが、やっぱり一つの社会実験というものは、今までにやてないようなことをやる、そのことにチャレンジする若い職員たちの思いというものは私は大切にしたいなと。

したがって、議員の皆様がおっしゃるのはごもつともなんですけども、安全については、こ

これは市が単独でやるということじゃなくて、あくまでも長井警察署初め県の公安委員会のほうでのご協力を伴って、県も、東北で1カ所ということで、いろいろ指導いただきながら万全を期していきたい。

特にあそこの通りを使用される平野地区、また西根地区の住民の皆様初め市民全体、また、よっぽど注意して、これからラウンドアバウトの交差点だよというのは事前にお知らせしなきゃいけないと思います。車で通って、初めて通る人が何だろうというふうになるわけですから、そういったことも容易に想像できますので、ここは本当に、皆様には急な話で混乱を招くようなことで恐縮でございますけれども、何とかお認めいただいて、私どもも万全の体制で臨んでいきたいと。

そして、これが結果として成功例と、しかも雪の対策を含めたラウンドアバウトの成功例となりますと、私どもの、私個人の考えですと、やはりこういう人間社会の中では、私ども苦勞してそういう実験したことに対する評価というのは必ず国も県もしていただけると。したがって、ほかのところで、あそこの場所いいから、平山みたいにうちしてもらいたいといった場合は、必ずそれは優先して採択していただけるものというふうに思っておりますので、最初やっぱり苦勞はしますけれども、皆様からご指導いただきながら頑張っていきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いたします。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間瀧広議員** ありがとうございます。ぜひ安全には十分注意していただきたいと思っております。

ただいま市長が申されたとおり、本当に若い方のそういうチャレンジしたいという気持ち、私大切にしたいというふうに思っております。それは変わりございませんので、今後も応援していきたいと思っております。

市民の方に、この議会を通じて周知していただくという意味でも、もう一回、ちょっと最後で申し上げたんですけれども、もしあそこに信号機をつけるとなるとどのぐらいかかるか、市民の皆様に教えていただきたいと思っております。

済みません、建設参事、お願いたします。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

常任委員会協議会の追加資料ということでもお渡ししておるとおりですけれども、1期の、普通の左折とか右折とかの明示がない信号機、一般的な信号機で、およそ3,260万円ということでございます。それに、そのほかに毎年の電気代なり、メンテナンス料金なり、100万円から200万円かかっていくんだらうなというふうに考えております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間瀧広議員** ありがとうございます。

もう一つ、どうしてもお聞きしておかなきゃならないんですけれども、第一校舎の件でございます。

これ市民の皆様にお聞きすると、賛否両論というのがあるわけなんです。例えば、一応6億2,000万円かかるということでは、交付税措置を1億6,700万円ぐらい見込んで、4億5,300万円が市の持ち出しだというようなことで、まずもって残すか残さないかというようなお話もちらっと聞こえてきているわけです。

私は、私もここの卒業生でございますので、ぜひ残してもらいたいもんだなというふうに考えておるところでございますが、これを今後残していくということであれば、やはり市長の並みならぬ、何つうんですか、強い決意というのがねえと、これは維持費、管理費なんつうのはまだまだこれからかかると思うんですよね。雪は降るし、雨も、台風も、そういうことあると思うんですけれども、市長はどういうふうにその辺

をお考えになっているか、ぜひお聞かせください。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 申し上げます。

第一校舎については、そもそも私個人としても、あとは教育委員会の皆様のお考えとしても、やはり長井の教育としての財産はすばらしいものだ、全国に誇れる登録有形文化財だと思っていますので、できるだけ先人の思いを引き継いで残したい。

一番、何ていうんでしょうか、支援を受けながらできるやり方というのが、文部科学省の補助事業によりまして、免震工事と大規模改修ということでございましたけれども、努力した結果として、これは負担が多過ぎて、これではくいが残るんじゃないかということで、学校としての整備はやめたわけですね。したがって、ただでも、何とか活用したいということで、今回、地方創生の推進交付金というのでチャレンジしてみたいということで、急な提案で恐縮でございましたけれども、予算のほうを上程させていただきました。

今後、まずは1年かけて利用の方法等と、市民の皆様からのさまざまなご意見をいただきながらまとめ上げて、そして、ただ単に昔懐かしい校舎だから残すということだけじゃなくて、教育の面でもこれからも、いろんな面で資することができる。あわせて、お金はかかったけれども、その分多くの方が利用、市民以外の方も利用していただいて、経済的な効果、あるいは中心市街地の活性化にも資するというような条件を整えて工事を行っていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ皆様からも、先ほど五十嵐議員初め、いろんな方々からも、今泉議員からも提案いただきましたけれども、さまざまな案を出していただいて、その中で頑張っていて、残してよかったと思えるような整備をしていきたいと思えます。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間瀧広議員** よろしくお願ひ申し上げます。本当に私も教育施設というんですか、やっぱり古いものを残していくというのは、本当に子供たちにとっていい教育の現場というんですか、ものになるんじゃないかなというふうに思っています。先ほど教育委員長申されたとおり、古い物を大事にする、物を大事にするというのは、本当に私もそのとおりだと思っております。

ここに温故知新というような言葉もあるんですけども、古きを訪ねて新しきを知るというようなことで、私も大賛成でございますので、よろしくお願ひ申し上げます。

以上で終わります。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** 済みません、最後になりましたけれども、今いろいろと皆さんから……。 (「最後でない」の声あり)

○**8番 今泉春江議員** この質問では、また質問なさる方もいるかもしれませんが、今いろいろなご意見が出まして、文化財としての第一校舎保存というのが、やっぱり経費がかかり過ぎるということで考えるべきだというような意見が大変多く出たと感じております。しかし、今の赤間議員や五十嵐議員からは、長井小学校の保存ということで今質問ありました。

私も同じようなことを思っておりまして、今まで文教で管理棟の問題などを教育委員会としていろいろ提案していただきましたけれども、何か二転、三転になって大変ちょっと見通しも甘かったかなと今思いますと、私たちも非常にそこは反省しているところです。

しかし、残すという、残してほしいという声は少ないなどという議員もいらっしゃいましたけれども、私は多くの市民が長井市の宝、誇りとして、一般質問でも申し上げましたけど、残し

てほしいと言っております。このたびも、日にちありませんでしたけど、多くの方とお話ししたら、やはりほとんどの方がそういうふうにおっしゃっておりました。財政問題 6 億 2,000 万円、さまざまな補助金とか交付税とかということで、4 億円ちょっとということで、負担も非常に大きいんですが、いただいた資料にも書いてありますけれども、免震化等への文化庁補助活用も再検討とか、また事業費の変更があれば増加も見込めるとか、あと寄附の募集、寄附ですね、そういうことも書いてありますので、ぜひ前向きに取り組んでもらいたいと思います。

今、赤間議員からも質問が出ておりましたけど、私もここに、市長に前向きに取り組んでほしいということを確認したいと思って質問をするつもりで用意しておいたんですけども、市長、同じように、簡単にそうなんですということをおっしゃっていただければ力強い、お力をいただければと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 今泉議員からも励ましていただきましてありがとうございます。

ぜひ、議会の皆様のご理解をいただきながら、また、さまざまなご提言をいただいて、市民の皆様とともに、残してよかったと思えるような長井小学校の第一校舎にしていきたい、また、活用方法についてもいろいろ充実させていきたいというふうに思いますので、今後ともよろしくご指導をお願いします。ありがとうございます。

○**渋谷佐輔議長** 8 番、今泉春江議員。

○**8 番 今泉春江議員** 力強い答弁で大変うれしく思います。

今後とも多くの市民や議会の英知を出し合って、保存、活用に向けていくことが大変重要だと思っております。ぜひ、保存、活用に向けて進んで、前向きに取り組んでいただきたいと思います。

す。終わります。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

7 番、渡部秀樹議員。

○**7 番 渡部秀樹議員** 私、2 点なんですけども、まず 1 点目が長井小学校第一校舎、先ほどちょっと答弁漏れというわけではないんですけども、具体的な言葉をいただけなかったことに気がつきまして、質問させていただきます。

先ほど来、残して使っていくという形で話が進んで、市長からも心強いお言葉をいただきましてありがとうございます。加藤教育委員長の言葉がしみることもありましたが、古い物を使うのが価値で、大切に使っていくことが教育になっていくと。大切な心と、残したい、使ってもらいたいという言葉は私の心に今響いております。

そういった中で、学校ではない教育施設、学びの場として使っていく場合、学校と切り離れた場合に、小学校に通う子供たちの視覚的安全ですとか、実際的にさまざまな殺傷事件とかもございますので、安全対策、具体的に市長はどのようにお考え、もしあればお聞かせください。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

やはり渡り廊下は取り除くわけでございますが、幸いも中庭とかがありますので、その部分に、学校の中に関係者以外入れないようなフェンスがいいのかどうかですけども、そういったところは配慮しなきゃいけないと。

ただ、おっしゃいますように、校庭が中に入っているわけですから、慈愛の森もそうなんですけども、そこをどういうふうにして子供たちに、もしもの危険性が及ばないようにするかについては検討していきたいと思いますが、あの監視カメラぐらいで済むのかどうかということもありますし、そこについては、今度はあその施設が活用するということなので、人が常時いる関係から、何とか安全性を保てるような方

策を考えていきたいというふうに思っておりますので、よろしくご指導方お願いしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 答弁ありがとうございます。まだ工事も済んでいない、始まってもない状況の中で、市長から難しい答弁ありがとうございました。

長井小学校には見守り隊という組織がございまして、学校のPTAとか地域の方で登下校を見守るといふそのシステムという組織がございまして、ぜひ指定管理なり、その管理する民間団体が入ったならば、その見守り隊という組織の中に入れてもらって、見守っていくんだ、安全に見守るんだという体制で管理していただきたいなと思います。

続きまして、第2点目がラウンドアバウトの件なんですけども、まだ下見のほうに行っておられないというのが私の質問以降にあったので、少しだけ聞かせてください。

この近隣のラウンドアバウトを実施している、ラウンドアバウトとして完全に設置されているというところは宮城県が多いわけなんですけども、宮城県でも大崎にあるのが、リゾートゾーンの中にぽつんとあるのが1つ、石巻は墓地のロータリーのような状態で1個あります。あとは全て住宅街ですね、塩竈、名取、仙台、住宅街の幹線道路とのつながりの1個手前のところで、減速のためについているのがラウンドアバウトのような形になって、今ラウンドアバウトとして設置されていると私は記憶しております。今回設置されるような大きな道路やまちなかの道路という形ではないので、ぜひ下見に行くならば、ネット上にも載っていますけども、探してもらって行っていただきたいと。

私が経験上、一番ラウンドアバウトでラウンドアバウトだなと感じたところが、京都の国道437だか8だかの道路上なんですけども、B&

Gだと思ったんで、海洋財団の施設の斜め向かい側にあるんですが、そこはもう完全にまちなかの国道上のラウンドアバウトだったと記憶しております。私そこで間違っって1周した記憶があるので、どうやって回ったらいいなだろうというところで大変苦慮したんですけども、私以外の車は普通に回って、普通に通っております。

でするので、京都はちょっと遠過ぎますけども、今回の検証するに当たって見てみたい道路上の動きを、それに近いような箇所でも一回下見なされたらいいと思いますけども、市長、どうでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** いろいろな事例の紹介ありがとうございます。本当に渡部議員については、いろいろなところをごらんになったり、知識を持っておられるので、今後ともラウンドアバウトに限らず、観光交流センター、道の駅などもご指導いただきたいと思いますが、今回予算をご承認いただきましたら、早速今度、事業ができるということなので、まずは隣の宮城県の事例がたくさんありますので、職員のほう、担当する職員のみならず、できるだけ多くの人間に現場を見せてあげたいなというふうに思っております。旅費も計上していると思いますので、何とかお認めいただければというふうに思います。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** そのほかございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ほかに質疑もないので、質疑を終結いたします。

それでは、議案第47号について討論を行います。ご意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ご意見もないので、討論を終結し、採決いたします。

議案第47号は、原案のとおり決するに賛成の

議員の起立を求めます。

(起立全員)

○**渋谷佐輔議長** 起立全員であります。

よって、議案第47号は、原案のとおり決定いたしました。

日程第7 議案第48号 長井市教育委員会教育長の任命について

○**渋谷佐輔議長** 次に、日程第7、議案第48号長井市教育委員会教育長の任命についての1件を議題といたします。

提案者の説明を求めます。

内谷重治市長。

(内谷重治市長登壇)

○**内谷重治市長** 議案第48号 長井市教育委員会教育長の任命についてご説明申し上げます。

本案は、平成28年7月9日をもって任期満了となります長井市教育委員会教育長の後任者として平田 裕氏を任命いたしたく、ご提案申し上げますのでございます。

よろしくご同意賜りますようお願い申し上げます。

○**渋谷佐輔議長** 提案者の説明が終わりました。

本案は人事案件でありますので、質疑、討論は省略し、直ちに採決いたします。

議案第48号について、原案に同意することに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○**渋谷佐輔議長** 起立全員であります。

よって、議案第48号は、原案に同意することに決定いたしました。

日程第8 議案第49号 長井市固定資産評価員の選任について

○**渋谷佐輔議長** 次に、日程第8、議案第49号長井市固定資産評価員の選任についての1件を議題といたします。

提案者の説明を求めます。

内田重治市長。

(内谷重治市長登壇)

○**内谷重治市長** 議案第49号 長井市固定資産評価員の選任についてご説明申し上げます。

本案は、人事異動に伴い、佐野安広税務課長を長井市固定資産評価員に選任いたしたく、ご提案申し上げますのでございます。

よろしくご同意賜りますようお願い申し上げます。

○**渋谷佐輔議長** 提案者の説明が終わりました。

ここで、審議の都合上、佐野安広税務課長の退席を求めます。

(佐野安広税務課長退席)

○**渋谷佐輔議長** 本案は人事案件でありますので、質疑、討論は省略し、直ちに採決いたします。

議案第49号について、原案に同意することに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○**渋谷佐輔議長** 起立全員であります。

よって、議案第49号は、原案に同意することに決定いたしました。

ここで、佐野安広税務課長の復席を求めます。

(佐野安広税務課長復席)

○**渋谷佐輔議長** 佐野安広税務課長に申し上げます。

あなたの長井市固定資産評価員の選任に同意いたしましたので、告知いたします。

最後にお諮りいたします。

本定例会において議決されました議案の中で、条項、字句、数字その他、整理を要するものについては、会議規則第43条の規定により、その整理を議長に一任願いたいと思っておりますが、これ

にご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ご異議なしと認めます。

よって、整理を要するものについては、その整理を議長に一任することに決定いたしました。

閉 会

○**渋谷佐輔議長** これをもって平成28年第2回長井市議会定例会を閉会いたします。ご協力まことにありがとうございました。

午後 2時14分 閉会

会議録署名議員

議 長 渋 谷 佐 輔

7 番 渡 部 秀 樹

8 番 今 泉 春 江

9 番 梅 津 善 之